



## ランプ飴

ランプ飴は竹の皮につつまれた飴で尼崎の特産品の一つです。この飴づくりを始めたのは木嶋善次郎さんで、元々は明治の頃、尼崎の日雇辻(ひょうつじ)でランプ屋を営んでいました。しかし、時代とともにガス灯や電灯が普及し、別の商売をしようと飴づくりを思い立ったのがランプ飴の始まりです。

ランプ飴は直径30センチほどの銅(あか)鍋の中に、粳(うるち)米を原料とした水飴に水と砂糖を加え、煮詰めて、最後にゴマを加えて作られます。しっかり混ぜながら火や水の加減は経験と勘をもとにすべて手づくりで作られました。「自分の納得のいかないものは売らない」と、気に入らないものは捨てるという徹底ぶりでした。そんなランプ飴は淡白で舌触りがよく味も上質で、形や切り方、包装まで自然で素朴な雰囲気が好評を得て、瞬く間に人気になります。この飴はランプ屋が作った事からランプ飴と呼ばれるようになりました。尼崎の名物となったランプ飴は年末には、尼崎に住んでいる人をはじめ、池田や能勢などあちこちから人が詰めかけ行列となるほど賑わっていました。

その後、日雇辻にあった店は戦時中の家屋疎開でなくなり、戦後にお店の場所をかえて94年間、親子三代にわたり、伝統の味が引き継がれます。しかし、長い付き合いだった原料の水飴屋さんが店をたたんだことから昭和60年頃ランプ飴は廃業となりました。\*木嶋さんのご子孫は現在も箕面市にあるランプ阿免本舗を営まれています。(参考:「図説尼崎の歴史 下巻」尼崎市立地域研究史料館/編 尼崎市役所)

### ◆ 飴の文化

「玉ねぎは飴色になるまで炒めましょう」—カラフルな飴玉が身近にある現代の子どもが聞くと飴色はどんな色か疑問に思うのではないのでしょうか。昔の飴は米や麦を使用し、飴色は透明・黄褐色を指しました。

大阪には現在、飴専業メーカーが多く存在します。江戸時代、天下の台所だった大阪には砂糖が集まり全国に出荷されました。砂糖は元々滋養強壮の薬として販売されており、古くから薬局が多かった堺筋は砂糖問屋がたくさんありました。原料の砂糖が調達しやすかったことなどから、飴を含めた砂糖菓子の業者が増えたようです。また、関西では食べ物に「さん」付けする文化があり、飴は少し砕けて「飴ちゃん」と呼ばれてきました。飴は個包装で渡しやすく会話のきっかけになることから、長い歴史の中でコミュニケーションツールとしても愛されてきたことが伺えます。

(参考:大阪、なぜアメだけ「ちゃん」他の食べ物は「さん」、日本経済新聞、2020-10-20、夕刊、P.9)

### ● 「秋のお菓子」についてならこんな本●

『いも・くり・かぼちのスイーツ増補改訂版』信太康代/著 ブティック社 212123405

『栗のお菓子づくり』今井ようこ/著 誠文堂新光社 212246184

『秋のスイーツ』大森いく子/著 金の星社 221657205

### <図書館の休館日>

印の日はお休みです

11月

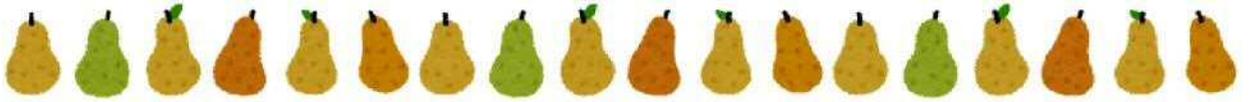
12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	③	4	5
⑥	7	8	9	10	11	12
⑬	14	15	16	17	18	19
⑳	21	22	㉓	24	25	26
㉗	28	29	30			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
④	5	6	7	8	9	10
⑪	12	13	14	15	16	17
⑱	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



11月:霜月(しもつき)  
 「霜降月」が転じて「しもつき」になった説がある。  
 誕生石:トパーズ、シトリン  
 時候:晩秋、暮秋、落ち葉、小春日和、初雪、菊薫る、雪化粧



# 兵庫県立ピッコロ劇団員によるおはなし会

- 【日 時】 12月11日(日) 15:00~16:00
- 【会 場】 3階集会室
- 【対 象】 3歳~小学生とその保護者
- 【定 員】 先着50名
- 【申 込】 11月17日(木)~ 1階カウンター、または電話にて受付
- 【演 目】 『さるの生き肝』、『西遊記』



演技のプロによるおはなし会は迫力満点！  
※ 事前の申し込みが必要ですのでご注意ください。



## 秋の読書週間イベント



- 【期 間】 10月28日(金)~11月23日(水)
- 【場 所】 1階ロビー
- 【対 象】 3歳~小学生

読書スタンプカードをもらってポイントをためよう！  
本を1冊借りると1ポイント、「どうぶつクイズ」に答えると2ポイントゲット！  
スタンプがたまったら、ささやかな景品をプレゼント！

- ☆ 景品はなくなり次第終了となりますのでご了承ください。
- ☆ どうぶつクイズの問題用紙は1階の階段下にあります。  
答え合わせは1階児童カウンターへ
- ☆ 児童大展示では「どうぶつ」の絵本を3冊セットにしてご用意しています。



### <11月展示のご案内>

- 一般大展示 「おすすめ本POP」
- 2階展示 「キノコの世界」

- ◆ 急遽イベントを中止、または延期する場合があります。
- ◆ ご来館の際は感染症対策へのご協力をお願い致します。

# 大人のための朗読会

【日時】 11月16日(水) 午後2時から1時間ほど

【場所】 3階 集会室

【内容】 『夜に星を放つ』より

「星の随(まにま)に」 窪 美澄/著

朗読はボランティア「ま・どんな」のみなさんです。

※ 状況により、内容の変更・中止になる可能性があります。

## 人を読む 辻村深月

1980年～山梨県生まれ。『冷たい校舎の時は止まる』でメフィスト賞、『ツナグ』で吉川英治文学新人賞受賞。『鍵のない夢を見る』で直木賞を受賞。ほかの著書に『ふちなしのかがみ』『本日は大安なり』『琥珀の夏』など。

### 『きのうの影踏み』

辻村 深月[著]/KADOKAWA

「ある神社の賽銭箱に“消したい”人の名前を書いた紙と十円玉を一緒に十日間続けて投げ込む」と、その人を消してもらえるのだという。ミサキとマヤは消えてしまった仲良しの「なっちゃん」を探し回るが...。 「十円参り」ほか13編の怪談集。『小説現代』他掲載を単行本化。

### 『太陽の坐る場所』

辻村 深月[著]/文藝春秋

年に一度のクラス会に集まったメンバーは、かつての同級生が女優「キョウコ」として活躍していると知り、クラス会に彼女を呼ぼうと話し合う。聡美・紗江子ほか「キョウコ」をとりまく人達は、それぞれの思いを抱えており...。『別冊文藝春秋』連載を単行本化。

### 『ネオカル日和』

辻村 深月[著]/毎日新聞社

著者の興味の赴くまま、漫画・能・パワースポットなど様々に取材したエッセイをはじめ、お気に入りの映画や本について、自身のこだわりや「小説家」の日常について綴る。ショートショート&短編小説も特別収録。『毎日新聞』朝刊に掲載されたルポエッセイを中心に書籍化。

### 『すきっていわなきやだめ?』

辻村 深月[作] 今日 マチ子[絵]  
瀧井 朝世[編]/岩崎書店

“すきなひとに「すき」っていうのがはやってる。” みっちゃんは、好きな人に告白できないなら本当の「好き」じゃないっていうけれど...。こうくと一緒にいると楽しくて、遊びに誘われると嬉しい。嫌われるのがイヤで「好き」って言えない、揺れる気持ちを描く絵本。【小・中学生】

千葉大学教育学部卒業後、働きながら執筆を続ける。2004年に『冷たい校舎の時は止まる』でデビュー。2008年に会社を退社、専業作家となる。著書の『朝が来る』『ツナグ』『ハケンアニメ!』などは映画化し、2018年本屋大賞受賞『かがみの孤城』は劇場アニメとして公開予定。他に『凍りのくじら』など賞候補となった作品も多数。

# 児童室

## おはなし会



第1・第3 土曜日 場所:3階集会室

おひざのうえ (0~2歳くらい) 午後2:00~  
 小さい人 (3~5歳くらい) 午後2:15~  
 大きい人 (小学校低学年くらい) 午後2:40~

11/5 (土)

● おひざのうえ  
 「こっちむいてほいっ」  
 「ごろごろごろ」

○ 小さい人  
 「たのしいふゆごもり」  
 「おいしいおかゆ」

◎ 大きい人  
 「まってるまってる」  
 「だれか、そいつをつかまえろ！」

11/19 (土)

● おひざのうえ  
 「どうぶつクッキー」  
 「おやすみなさいコッコさん」

○ 小さい人  
 「くんちゃんはおおいそがし」  
 「ねずみのすもう」

◎ 大きい人  
 「11ぴきのねことへんなねこ」  
 「マメ子と魔もの」

11/12 (土) は、  
 チャリティ・リサイクル  
 ブックフェアにつき  
 おやすみです！



第1・第3 水曜日  
 あかちゃんひろば

場所:1階絵本コーナー

11/2(水)、11/16(水)

午前11:00~11:20

0歳~2歳くらいのお子さんと保護者向け  
 赤ちゃん絵本、わらべうた、手遊びなど



第2・第4 日曜日

場所:1階ロビー

2歳くらいから

11/13(日)11/27(日)

午前11:00~11:20

季節の絵本や紙芝居など

# 11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 🐰	3	4	5 🐶
6	7	8	9	10	11	12
13 🐻	14	15	16 🐰	17	18	19 🐶
20	21	22	23	24	25	26
27 🐻	28	29	30			

今月の展示

『どうぶつ  
 お楽しみかかしだし』

